

G20で本校生が提言を行いました。

6月8日(土)、つくば国際会議場での「**G20 貿易・デジタル経済大臣会合**」において、本校の5年次生6名が参加国の閣僚に対して、「**AIを利用した食品ロスの削減**」についての提言を行いました。余った食品を必要な家庭などに配る革新的な食品輸送を「**The MOTTAINAI System**」としてまとめ、英語で提言しました。

国際会議の大舞台で、日本の高校生を代表して、立派な提言ができました。この模様は、当日夕方の**NHK首都圏ニュース645**や、翌9日の**朝刊各紙**に大きく報道されました。許可をいただきましたので、6月9日の茨城新聞の記事を掲載させていただきます。

6名の生徒たちは、5月29日に本校を訪問して激励してくださった**石田真敏総務大臣**と再会し声をかけていただき、喜んでいました(大臣訪問の記事はドリーム**第440号**)。

なお、本校では、今回の発表を一過性のものとはせず、**G20レガシー**として、今後、**食品ロスの問題**や**SDGs**に積極的に取り組んで行きたいと考えています。



「食品ロス」の削減策を英語で提言した県立並木中等教育学校の生徒たち＝つくば国際会議場、菊地克仁撮影

プレゼンテーションは、一で行われ、いずれも高校2「デジタル経済セッション」の合間に約10分の持ち時間 周平さん16▽福田一弥さん16▽竹内響さん16▽池田

つくば G20

食品ロス「削減を」

並木中教校生 独自の物流提言

食へ物に感謝を。8日につくば市で開催した20カ国・地域(G20)貿易・デジタル経済大臣会合。県立並木中等教育学校の高校生6人が、国際会議の大舞台で「食品ロス」の削減案を力強く訴えた。

今回のテーマは、3月に同級生約150人による集会で意見を出し合い決定した。生徒代表となった6人は、放課後を使いながら資料作りを進めてきた。竹尾さんは「筑波大の外国人留学生にアドバイスをもらったこともあった」と振り返る。竹内さんは、英語の弁論

人丁知能(AI)を活用し、フードバンクに届いた食べ物の安全性を回収箱に入れたまま判定する装置を考案。提供が難しいとされる生鮮品については、地下空間の輸送システムやドローンが有効とした。さらに、貧困の度合いが高いほど食べ物を受け取りやすいスマホアプリの開発を求めた。英語で発表した竹内さんは、世界の食品の約3分の1が廃棄されている現状を訴えた上で「食品ロスの背景には環境破壊、資源の枯渇、貧困改善の停滞などさまざまな問題が潜んでいる」と強調。各国の閣僚らは高校生たちの訴えに耳を傾け、惜しめない拍手を送

大会で好成績を収めた実力の持ち主で、昨年春から同市内の子ども食堂でボランティアに組み込む。「日本の貧困層の子どもたちは一見ふくよかだが、栄養のあるものを食べられていない」と指摘。「各国で今回の提案に似たような活動をしてくれたらうれしい」と期待を寄せる。

リーダーを務めた金沢さんは「このメンバーでできたことがうれしい。100点満点だ」と満足げに話した。今回の成果を踏まえ、同校は6人によるプレゼンを校内で再び披露するとともに、各家庭で余った食品を持ち寄る「フードドライブ」に乗り出したい考えだ。(小野寺晋平)